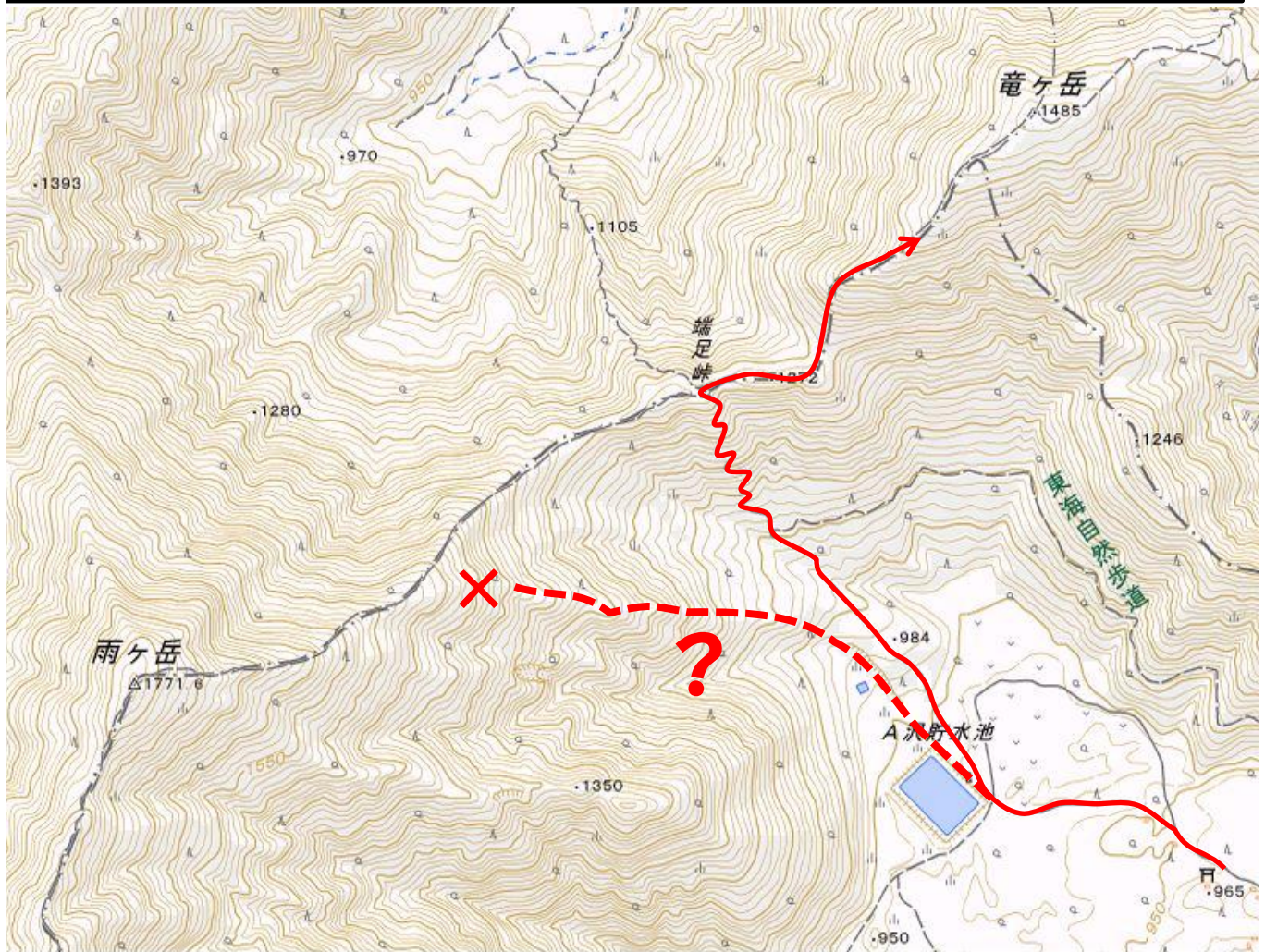


竜ヶ岳道迷い(2016年11月)

道がフェンスに遮られたが一か所が破られて、細い道が続いていた。変だなと思ったが進みしばらくすると道がなくなった。尚も進み植林帯の中で視界がきかず、正規の登山道ではないが、そのうち正しい道に出ると思い、また登ることにしたが灌木が密になり断念。



解説

貯水池を過ぎるとフェンスに遮られたが、フェンスの一か所が破られて、細い道が続いていた。変だなと思ったが、先に進んだ。(①あれっ?おかしい?)やはり変だと思って、今来た道を戻り、分岐を探すがなかった。(②来た道を戻るが現在位置の根拠がない)視界はきかないが、方向は概ね正しいと判断。正規の登山道ではないが、そのうち正しい道に出ると思い、また登った。(③道が違っているが自分を励まし進む)

やがて杉の植林帯から雑木林に変わった。この頃、はっきりと道に迷っていると自覚していたが、自分の位置が確認できるまで登って行こうと考えた。(④さらに自分を励まし進む)

ひょっとすると、このまま稜線に出られるかとの期待がよぎったが(⑤行動に期待する)、直ぐに道らしきものは消えた。あと少しで稜線というところまで来ていたので、そのまま直登し稜線を目指した。(⑥さらに期待感が行動を後押しする)しかし、直ぐに灌木が密になり、体が通らなくなった。本当にもう少しのところ、万事休すとなり撤退を決心した。(⑦万事休すとなり冷静さを取り戻した)

①～⑦は道迷いの心理が顕著に現れている。①あれっ?おかしい?と思ったときの初期行動がすべてを